

子ども・子育て支援事業計画の個別進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
1 地域における子育てへの支援									
（１） 地域における子育て支援サービスの充実									
1-1-1 子育て支援サービスの充実									
地域子育て支援セン ター事業	乳幼児の保育に関する相談に応 じ、必要な情報の提供及び助言を 行うとともに、子育てサークルへ の支援等を行う。	児童支援	1カ所	1カ所 延8,454人利用	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	前年度より40人の利用者が減っている が、定期的に通ってくれる親子がいた り、センターで顔見知りになった親子 が別な場所でも遊ぶことがあった。子育 てサークルを支援センター利用者に紹 介したり、物品の補助を行った。	親子で楽しく過ごせる場所の工夫をし、 利用者の増や親子同士のつながりを持て るようにしていく。	継続	
エンゼルサポート1 20	2歳未満の乳幼児を育てている子育 て世帯を応援するため、おむつ用ご み袋を支給、申請は1回。月5枚を 基本に最高120枚を支給。	保健福祉		支給131人 14,600枚	A 事業内容を達成 した（100%）	おむつ用ごみ袋を支給することにより、 子育て世代の経済的負担の軽減 が図られた。	今後も継続的に実施することにより経済 的負担を軽減し、子育て支援を図ってい く。	継続	
1-1-2 子育て情報提供、相談体制の充実									
子育てガイドブック 発行	保育サービスや公共施設、保育 所、公園などの子育て関連情報を 親や地域に的確に提供する。	児童支援	平成28年度、内 容改訂し発行予 定	平成28年度に発行済	A 事業内容を達成 した（100%）	各関係機関に配布。HPに掲載。	情勢を考慮し今後の改訂について検討し ていく。	継続	
インターネットによ る子育ての情報提供	保育サービスや公共施設、保育 所、公園などの情報を携帯電話や インターネットを利用して親や地 域に的確に提供する。	児童支援		実施	A 事業内容を達成 した（100%）	行事等を町HPに掲載したりして情報 提供を行っている。		継続	
しゃきとプラザの 活用	ブレイルームを子育て中の親の居 場所や相談の場として有効活用す る。	保健福祉		ブレイルーム利用数 1,023組 延べ人数 2,383人	A 事業内容を達成 した（100%）	子育て中の親子の居場所や交流の場 として活用されている。	施設、備品等の計画的な更新。	継続	
地域子育て支援セン ター事業	乳幼児の保育に関する相談に応 じ、必要な情報の提供及び助言を 行うとともに、子育てサークルへ の支援等を行う。【再掲1-1-1】	児童支援							
子育てカレンダーの 配布	町民全体が子育てを応援するとい う観点から、31編の標語を掲載 した日めくりカレンダー（通年使 用可）と、子育て関係の行事や緊 急連絡先等を記載し、第1子の新 生児訪問時に保健師を通じて母親 に配布する。	社会教育		平成27年度作成 分を継続的に配付 している。	A 事業内容を達成 した（100%）	平成27年度に作成したカレンダー を第1子を出産された家庭へ配付し ている。地域の方々が本町全体の子 育てを応援しているという観点に立 ち、今後も保健師を通じて配布を継 続したい。	日めくりカレンダーとして第1子を出産 した母親へ配布しているが、掲載され ている標語の更なる活用として、幅広い 世代に向けた情報提供を進める。	継続	
びほろっ子ブレイカ イドの配布	主として小学生を対象とした体験 事業の紹介、また事業実施に伴う 参加者募集の情報を毎月1回（月 初め）に広報誌として配布する。	社会教育		月1回発行 別に年間行事予定 発行	A 事業内容を達成 した（100%）	社会教育関係グループや他の子ども の事業の周知について行っており、情報紙 として認知していただいている。近年子 どもに関する事業が引き続き多い状況で あり、紙面の工夫について継続して取り 組んでいきたい。	今後も子どもの事業の情報紙として継続 的に発行を行っていく。 さらに、紙面の工夫により充実を図って いきたい。	継続	
（２） 母子の健康確保及び増進									
1-2-1 母子保健の充実									
妊婦の健康支援	安心・安全な妊娠出産ができるよう 妊婦一般健康診査にかかる費用を助 成するとともに交通費を助成するこ とにより母体・胎児の健康確保を図 る。	保健福祉		助成110人	A 事業内容を達成 した（100%）	妊婦一般健康診査にかかる費用を助 成し妊婦及び胎児の健康管理の充 実、経済的負担の軽減が図られた。	今後も子育て世帯への経済的負担の軽減 を図る。	継続	
子育て世帯禁煙サ ポート事業	子育て世帯の喫煙者に対する禁煙を 推進し、たばこの害から妊婦・子ど もの健康を守る。禁煙治療費の2分の 1を助成する（上限1万円）。	保健福祉		助成7人	A 事業内容を達成 した（100%）	禁煙の必要性は理解していても、実 際に治療を開始する人が少ないのが 現状である。	母子健康手帳交付時や乳幼児健診、各種 イベント等で事業の周知を行う。	継続	
新生児等訪問指導	新生児と保護者を対象に発育や発 達に関する相談、育児相談、健診 や予防接種の説明などを行う。	保健福祉		109件	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	家庭訪問により、母子の健康の保持 増進、育児不安の軽減に努めた。	育児不安をもつ母親への支援を継続す る。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
乳幼児相談	健やかな子どもを育てるために、母親の相談に応じ、乳幼児の健康保持増進を図り、育児を応援する。	保健福祉	12回	12回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	保護者の相談に応じるなど、乳幼児の健康増進と育児不安の軽減を図るよう支援した。	子どもの発達や育児不安を抱える保護者に対する支援は、個々に合わせた丁寧な対応が必要となる。	継続	
乳児健康診査	発達の著しい乳児に対し集団健診を実施し、異常の早期発見、離乳食指導、育児指導を行い、乳児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	12回	12回	A 事業内容を達成した（100%）	出生数の減少により、4か月と10か月健診を同時に実施することとした。同時に健診をすることでの混乱はなかった。	育児教室などの育児支援サービスや家庭訪問など、健診後のフォローも必要時実施する。	継続	
1歳6か月健康診査	運動機能、精神発達、聴覚などの異常の早期発見、助言、育児・栄養・歯科指導を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	10回	10回	A 事業内容を達成した（100%）	回数を増やすことで、1回の受診数にゆとりができ、保護者に対して丁寧に対応することができた。	育児不安や発達に心配をもつ保護者が増えており、育児教室や訪問等で健診後も必要な支援を継続する。	継続	
発達支援教室	ことばの遅れや多動など、幼児期における発達やかかわりについて、小集団の親子遊びのなかから学ぶ。	保健福祉	2回	2回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	保護者が児の特性を理解し、児に合わせたかかわりを学ぶことができた。親同士の交流のなかから育児状況について共有することができた。	教室終了後も発達支援を受けたいという保護者のニーズが多い。	継続	
3歳児健康診査	幼児期における疾病、視聴覚の異常、精神・運動の発達遅滞児などの早期発見を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	10回	10回	A 事業内容を達成した（100%）	回数を増やすことで、1回の受診数にゆとりができ、保護者に対して丁寧に対応することができた。	育児不安や発達に心配をもつ保護者への対応を丁寧に行っていく。保育園などと連携し、未受診者に対する働きかけや状況把握に努める。	継続	
5歳児相談	集団生活を行う中で築かれる社会性の発達、自己統制力の発達の確認を行い必要な支援を図る。	保健福祉		13回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家族や関係者が児の特徴や対応方法について理解することができた。支援機関につながったケースもある。	就学に向け、関係機関との共有や引き継ぎの機会を増やしていく。	継続	
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判定の機会の確保を図る。	保健福祉	8回	8回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	児童相談所の職員による発達相談を実施。福祉制度の実施のために必要な判定の機会を提供できた。	今後もこども発達支援センター等と連携しながら、相談・支援していく。	継続	
1-2-2 食育の推進									
食育学習機会の提供	夏休みなどを利用した親子調理教室の開催やレシピなどの情報提供、食生活に対する学習機会を提供する。	保健福祉		小学校児童対象 食育教室 2回 24人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	料理教室は昨年よりも多い参加を得た。親への情報提供は子育て支援センター、しゃきっとプレイルームでポスター展示や健康教育を継続している。	今後も継続して取り組む。	継続	
地産地消の推進	安心・安全な食材の提供を目指し地産地消に取り組む。	学校給食	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用	美幌産米の使用収穫 時～毎月1回 美幌 産野菜使用	A 事業内容を達成した（100%）	目標を達成することができた。	今後も継続して取り組む。	継続	
子どもチャレンジクッキング	料理を通して地元産物を考えるとともに、生活に必要な基礎的な技術を習得する。	社会教育		年2回実施 （7月・2月） 延45名出席	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	事業ののらいいや内容に賛同いただき、定員を上回る申込みをいただくことができた。日本の伝統文化や料理についての興味関心を引き出すなど、事業の目的を対象者に伝えることができた。	事業内容を工夫するなど、関係団体とさらに協議を行い事業を充実させたい。	継続	
1-2-3 思春期保健対策									
思春期保健対策の充実	思春期の身体を守る正しい知識と情報伝達のため学校等と連携をとり、学習機会や相談体制の充実、医師・保健師の講座を開催する。	保健福祉		小学生171人	A 事業内容を達成した（100%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙について健康教育を実施できた。	今後も実施継続に向けて学校と連携していく。	継続	
薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のための教育、指導活動を推進する。	保健福祉		小学生171人	A 事業内容を達成した（100%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙について健康教育を実施できた。	今後も実施継続に向けて学校と連携していく。	継続	
1-2-4 産婦人科医療対策									
産婦人科医師対策 （助産師相談の充実）	産婦人科医師の確保に最大限に取り組む。助産師によるきめ細やかな相談体制の充実。	町立病院	（平成28年度）	未達成	D 着手はしたが一定程度まで達しなかった（30%）	産婦人科医師が配置されるまでエントリーネットで対応している状況。	全国的な課題であり困難なことではありますが、引き続き産婦人科医師の確保に努めたい。	継続	
妊婦エントリーネット 119	事前に妊婦情報を届出・登録されると、緊急性があると判断したときに出産予定医療機関へ、救急車を出勤させて妊婦を搬送する。	消防署		登録者数71名 （内、搬送者なし）	A 事業内容を達成した（100%）	登録率は高い傾向にある。今後も制度に対する理解と認知度向上のため、啓蒙活動を継続して実施していく。	母子ともに安全で安楽な分娩を援助できるよう、救急隊員の周産期ケアに対する研修を実施し、知識と技術向上の維持に努める。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
（３） 家庭や地域の教育力の向上									
１－３－１ 学習機会の充実									
家庭・地域の教育力向上のための学習機会の充実	各自治会の活性化を促し、「人材」の掘り起こしと蓄積を行い、地域ぐるみの見守りの力を向上させる。	社会教育		教育資源リストとして情報集約し学校に配布	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	人材リストについての運用と情報収集について方法を一新し取り組んだ。多様な人財とプログラムの蓄積をすすめていくことが課題である。	学校との連携により人材の活用にも力を入れ取組を進める必要がある。また、人材リストの名称について検討を進めてきており、新たな名称における利用拡大に努めたい。	継続	
家庭教育学級の開設	町内2幼稚園を核として、子育てにおける今日の課題における母親同士の交流機会を提供。各幼稚園の保護者が主体的に計画を立案し、実施・運営していく。	社会教育		全12回 延べ641名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	保護者役員の積極的な参画により予定していた事業をほぼ実施することができた。託児スタッフの確保が課題となっている。	共働き世帯が増えてきており、実施回数・参加者の減が見られるようになっている。また、託児の要望も引き続き多くなっている。参画いただいている保護者役員と適切な事業の運営について意見交換等行っていくたい。	継続	
１－３－２ 子どもの生きる力の育成									
コミュニティスクールの充実	事業・イベントの開催・運営主体に地域住民が参画し、取り組む。異年齢のふれあう機会につながり、経験や伝統、知識等を子どもたちに伝えるための体験機会となる。	社会教育		3小学校区で開設	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続	
子ども参画行事の推進	事業・イベントの開催・運営主体に小中高生が参画し、取り組む。	社会教育		高校生対象に随時	C 一定程度実施できた（50％）	高校生リーダーつみきサークル事業を中心にリーダー層の育成を行い、様々なイベントに参画するきっかけを作ったが、美幌町内高等学校が統合してから会員減が進んでおり、取組が必要である。	美幌高等学校との連携により、高校生のリーダーを安定的に養成していけるように調整を行っていく。高校生への呼びかけ方法を検討、スケジュール調整など高校生が参加しやすい環境作りを行いたい。	継続	
子どもちよっと体験教室	職業体験など社会性に留意した体験活動の機会の充実を目指し、自ら進んで興味・関心を持ち、体験できるような新鮮で意義あるプログラムの提供を行う。	社会教育		列車乗車体験1回 参加者28名 バス乗車体験 参加者20名	A 事業内容を達成した（100％）	社会生活に密着したものとして「列車」の乗車体験を実施すると共に、同じく公共交通機関の体験としてバス乗車体験を実施した。両事業とも申込みを多数いただき、ニーズにあった事業を行うことができた。	列車の乗車体験は今回で9回目の実施で依然要望が高く継続するとともに新にバスの乗車体験も加えこちらも好評をいただいた。公共交通機関の体験以外のプログラムも充実を図りたい。	継続	
おもしろキッズ共和国	参加対象である小学生自らがプログラムを立て実施。自発性を促し、様々な体験活動に興味・関心を抱く子どもの育成を図る。	社会教育		全9回 延べ184名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	異年齢のグループにより、自分たちで考え実施する取組を実施することができた。ボランティアに関する学習や、保護者へ感謝を伝えるプログラムなどの取組も実施することができた。	9回の実施はプログラム間に時間が少なく準備に苦慮する部分が多く見られた。実施回数と内容の見直しが必要である。	継続	
（４） 児童の健全育成									
１－４－１ 青少年健全育成活動の推進									
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。	児童支援	3カ所 (平成28年度) 150人	3カ所 138人 (最大在籍時)	A 事業内容を達成した（100％）	共働き家庭など、保育が出来ない児童の預かりを実施出来た。	小学6年生までの受入について（場所・指導員の確保）。	拡大	小学6年生までの受入が現施設内では困難な状況にあるが、実施可能な一部の学校で小学4年生から段階的に実施するなど拡大に向けて検討していく。
わんぱく教室	親と子のふれあいを深め、参加者相互のコミュニケーションを図る。	社会教育		未実施		平成27年度より廃止。		廃止	過年度においてすでに廃止。
びほろっ子ワクワク通学合宿	異なる学校や学年の子どもたちが、親元を離れ、1週間ほど集団で宿泊しながら学校へ通学することにより、異年齢の集団活動や生活体験活動を行う。	社会教育		5泊6日で実施 19名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	青少年育成専門推進員、生涯学習推進員の協力により、学習サポートを継続して実施することができた。参加者も多数楽しめることができた。	参加者の中で、会場のほこり等が原因と思われる体調不良が多くでてしまった。長期宿泊型の事業であるので、参加者の体調ケアも十分出来るよう準備を進めたい。	継続	
おもしろ科学の祭典inびほろ	自然科学の不思議さ、楽しさなどを体験するとともに、子どもから大人まで科学実験を通して、互いにふれあい、人と人とのつながりの大切さなどを感じ取る機会とする。	社会教育		年1回 305名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	美幌小学校で実施し、町内小学校のPTAからも協力をいただき科学の楽しさと人々との交流を実施することができた。また、北見工業大学や美幌博物館と連携した取組も実施することができ、プログラムの充実も図ることができた。	実行委員会の構成メンバーが引き続き減少傾向にあること、事前の会議・準備の人的不足が課題となっており、広く声かけをすることで、様々な機関・団体に協力を呼びかけていきたい。	継続	
子どもチャレンジクッキング	料理を通して地元産物を考えるとともに、生活で必要な基礎的な技術を習得する。【再掲1－2－2】	社会教育							

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
子ども対象サークル開設講座	マナビティーセンター利用サークルの主管により、親子や子どもの体験の場を拡充するとともに、地域人材と子どもがふれあう機会を作る。	社会教育		5組10名	C 一定程度実施できた（50%）	親子陶芸教室を実施したとともに、フラダンス教室に1組親子で参加いただいた。親子対象の事業が少ない中で、各サークルにご協力いただき拡充に努めたい。	マナビティーセンターを利用しているサークルへの呼びかけを継続的に行っていくたい。	継続	
キッズカルチャークラブ	土曜日の休日を活用し、地域人材による子どもの体験活動の機会を拡充する。	社会教育		5団体 延110名参加	C 一定程度実施できた（50%）	文化的な体験について土曜日を活用し提供することができている。マナビティーセンター利用登録サークルもプログラムを企画いただいたが参加者が得られず中止となったものもあり、広報活動を積極的にしていきたい。	今後も様々な体験機会の拡充を目標に、マナビティーセンターを中心に開設の奨励を強化していきたい。	継続	
学校週5日制に伴う学校開放事業「サタ☆スポ」	学校週5日制に伴うスポーツ活動の場を提供する。スポーツの楽しさを理解してもらいスポーツの日常化を図る。	スポーツ振興	市街3小学校 年5回 各館定員なし	年4～5回 美小 45名 東陽小 52名 旭小 133名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	外での運動をしなくなる冬場にかけて開催することで、運動を行う機会の提供が出来た。	学校活動の状況により、施設の開放が出来ない場合があることから、各学校との連携を強化して実施していく必要がある。	継続	
高校生短期交換留学	美幌高校とケンブリッジ高校の相互交換留学を実施し、語学修得と学校間交流を促進する。	まちづくり	1回 定員 2名	1回 2名	A 事業内容を達成した（100%）	異文化体験を通して交流推進と人材育成が図られた。	事業について広く町民に周知する必要がある。	継続	
田んぼの学校推進事業	農業農村整備事業で整備した農地と土地改良施設への理解を深め、人材育成、都市と農村の交流、人間と自然の共生につなげる。	耕地林務	定員 50名	年4回実施（田植え、観察会、稲刈、収穫祭） ・子供47名参加 延140名参加	A 事業内容を達成した（100%）	水田や水路、ため池などを、遊びと学びの場として活用し、自然と人との関わりを学ぶことができた。	新規参加者の拡大。	継続	
みどりの森 親子ふれあい農園	親子が仲良くふれあいながら専門家の指導のもと年間を通して農園で農作物づくりを体験する。	みどりの村振興公社		平成27年度を以て事業廃止				廃止	役割を終えたとの判断による
みどりの森 元気の森事業	元気の森を活動エリアとして、子どもとその保護者などの大人たちにより、乳幼児から児童・生徒、大人にまで森林体験の楽しさの普及啓発を図る。	みどりの村振興公社		お子様誕生記念植樹・化粧炭づくりと森林散策	A 事業内容を達成した（100%）	参加に大変好評だった。	誕生植樹は年々好評であるが、植栽地に限界がある。	継続	
教育専門相談	児童生徒の悩み、家庭での教育について幅広い相談を受ける。教育全般相談員1名、不登校相談員1名。	学校教育	2名配置	2名配置	A 事業内容を達成した（100%）	児童生徒や保護者へ教育に関わる専門的なアドバイスが行われている。また、引きこもりや不登校の改善などの効果が表れている。	相談員の活動に対する周知に努めてはいるものの、認知度が低いと思われる。更なるPRと専門知識の研鑽に努めていく。	継続	
少年少女バトミントン教室	スポーツ活動を積極的に進めるために、適切なプログラムに基づいたスポーツ教室を開設し、継続的にスポーツ活動体験させることによって、スポーツの日常化を促進するとともに、スポーツ団体、グループなどの組織育成を図る。	スポーツ振興						廃止	平成27年度で廃止
少年少女スケート教室（ジュニアスピードスケート教室に名称を変更）		スポーツ振興	定員 20名	年5回 23名延 99名	A 事業内容を達成した（100%）	初日には氷上前の確認を行い、残り4回を氷上で実施し、安全に配慮して行うことが出来た。ほぼ全員タイムが向上し、上達した成果を実感することが出来た。	スケートシーズンと重なっており指導者の確保が難しく、指導者の育成が必要である。	継続	
ジュニアスノーボード教室		スポーツ振興	定員 20名	年5回 14名延 56名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	技術指導は勿論のこと、スキー場利用についてのルールやマナー等も指導し、参加者の資質向上に努めた。	子どもたちの集中力を低下させないように進めることが必要であり、指導者間の連携をスムーズ行えるよう、調整を図った。	継続	
ジュニアクロスカントリースキー教室		スポーツ振興						廃止	平成26年度で廃止
ラッコ水泳教室		スポーツ振興	定員 50名	年6回 41名延 115名	A 事業内容を達成した（100%）	年代別に3回ずつの指導を行い、更に習熟度別で指導を行うことで、参加者全体の底上げが図られた。	運動会や天候などによって、欠席者が出ている様であるため、実施時期の検討を行う必要がある。	継続	
アイガモ水泳教室		スポーツ振興	定員 15名	年6回 14名延 76名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	幼児を対象とした教室であり、水慣れから泳法の基礎を教えることができた。	水に慣れていない子どもも多く、泳力の差が出てくるため、グループ分けなどをして習熟度別の指導を検討する必要がある。	継続	
サッカー教室		スポーツ振興	定員 30名	年5回 12名延 58名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	小学生低学年を対象にサッカーのルールや技術を習得し、サッカーに興味を持ってもらうことができた。	参加人数が減少傾向にあり、周知方法等の参加者増に向けた取組を検討する必要がある。	継続	
ベタンク教室		スポーツ振興	定員 20名	実績なし	E 着手できなかった	参加人数が少なく中止した。	ベタンクに興味・関心を持ってもらえるような周知の方法を検討する。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
剣道教室		スポーツ振興	定員 20名	年6回 16名延80名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	レクリエーション的要素も取り込み ながら楽しく剣道に接する機会を設 けることができた。	教室の開催にあたって、各種大会の 時期と重なるため指導者の確保が難 しく、開催時期の検討を行う必要が ある。	継続	
幼児体力テスト・運 動実技指導	幼児の体力傾向を探り、運動を処 方する。	スポーツ振興	町内幼児	体力測定 年2回 春季～76名 秋季～68名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	春季と秋季に実施することで体力の変 化を比較することができ、状況にあっ た運動メニュー等の紹介が出来た。	春季と秋季の間隔が短いため、内容の見 直しを検討する。	継続	
水泳技能検定	水泳の継続的活動を促進し、技 術・体力の向上及びチャレンジす る意識の高揚を図る。	スポーツ振興	年1回	年 1回 45名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	水泳少年団を中心に泳力検定を実施 し、個々の水泳技能向上に繋がっ た。	参加者のほとんどが水泳少年団であり、 幅広く参加が得られる様な工夫が必要で ある。	継続	
親子で親しむスポ ーツ等の実施	親子で参加する運動、スポーツの 機会を通して家族間の交流を図 る。	スポーツ振興							平成26年度で廃止
スポーツ少年団育成	スポーツ少年団の活動援助と結成 促進。	スポーツ振興	19団体	19団体	A 事業内容を達成 した（100％）	昨年より1団体増加し、19団体 となった。	スポーツ少年団の入団数増加だけでな く、指導者育成に対し、講習会等への支 援を行うことが必要である。	継続	
中3体力講習	中学3年生を対象にトレーニング 器具の使用方法やマナーを学ぶと ともに、大学講師の専門講話から 競技力や体力向上を図る。	スポーツ振興	年5回	年 5回 19名延84名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	日赤北海道看護大山本准教授を招へい し、トレーニング理論や体力向上にお ける専門的な知識を学ぶことができ た。	当初は美中、北中別々に実施する予定で あったが、参加人数の減少により合同で 開催した。生徒数も減少していることか ら、開催方法を検討する必要がある。	継続	
高校生トレーニング 教室	高校生を対象にトレーニング器具 の使用方法やマナーを学ぶととも に、大学講師の専門講話から競技 力や体力向上を図る。	スポーツ振興	年5回	年 5回 17名延78名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	日赤北海道看護大山本准教授を招へい し、トレーニング理論や体力向上にお ける専門的な知識を学ぶとともに、栄 養士による講話から食事と運動の重要 性を知る貴重な機会となった。	教室終了後も継続してトレーニングルーム を使用する参加者が数多く出ており、今後 もより専門的な内容を学ぶ機会の提供を 行っていく。	継続	
B & G会長杯町民水 泳大会	大会を通して、水泳の普及振興を 図るとともに町民の健康・体力の 保持増進と相互の親睦交流を図 る。	スポーツ振興	年1回	年 1回 58名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	美幌水泳協会が運営の中心となって 大会が開催され、大会新記録が多数 出るなど盛り上がりを見せた。	学校単位でのリレーを実施するなどし て、多くの参加が得られるよう工夫を 行った。	継続	
わんぱくスポーツ教 室	土曜日の休日を利用し、身体活動を通 して異年齢の交流と協調性や創造力を高 め、スポーツを楽しむながら健康体力づ くりの積極的な取り組みを促進する。	スポーツ振興						廃止	平成26年度で廃止
アクティブキッ ス・ビートスポ ーツ教室	生涯にわたって心身ともに健康で 豊かな生活を送るために、幼少期 における運動へ親しむ基礎を育 み、子どもの発達発達へ繋げる。	スポーツ振興	年間事業 月2回	年 33回 125名延519名	B 事業内容をほぼ 達成した（80％）	複数種目の運動・スポーツ活動をし ながら身体を動かす楽しさを伝える とともに、運動の習慣化と体力向上 が図られた。	種目設定が多岐にわたるため、種目に よっては指導者が不足することがあり、 指導者の確保・育成の必要がある。	継続	
チャレンジキッ ススポーツ教室	発達発達の著しい幼児期に身体を 動かすことによって、健康・体力 の保持増進を図り、生活習慣や人 間形成を身につけさせる。	スポーツ振興	定員 30名		E 着手できなかつ た			廃止	今後、文科省の採択を受ける機会 がないため、廃止する。
キッズ☆ビート スポーツ教室	発達発達の著しい幼児期に身体を 動かすことによって、健康・体力 の保持増進を図り、生活習慣や人 間形成を身につけさせる。	スポーツ振興	定員 30名	年 8回 30名延202名	A 事業内容を達成 した（100％）	運動遊びを通して、体を動かす楽し さを伝え、効果的なプログラムを実 施することが出来た。	開始前に運動内容を保護者に説明して実 施したことで、より家庭での運動能力向 上に繋げることが出来たため、引き続き 実施していく。	継続	
感動体験スポーツ研 修	町外から離れ、普段体験できない 自然体験活動や異年齢との集団生 活を通して、連帯感・責任感・積 極性・自立性を養う。	スポーツ振興	定員 36名	年 1回 21名	C 一定程度実施で きた（50％）	親元を離れ、様々な体験と集団生活を通 じて、楽しさ、辛さ、忍耐等を養うとと もに、親への感謝の気持ちを感じてもら い、人間的に成長するきっかけをつくる ことができた。	雨天により安全性を考慮し、実施内容の 変更を行ったが、雨天時により達成感を 味わえる内容を検討する必要がある。	継続	
おはなしのへや（幼 児・児童・父母）	豊かな人間性を育て、読書への関 心を芽生えさせるための絵本・紙 芝居の読み聞かせを実施する。	図書館	月2～3回 （第1・3・5木曜）	年23回 延142名	A 事業内容を達成 した（100％）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、今後さらなる 事業のPRが必要である。	継続	
絵本とあそぼ！（乳 幼児・父母）	乳幼児を対象としたお楽しみ会、 読み聞かせ会を行う。	図書館	月2回 （第2・4木曜）	年22回 延229名	A 事業内容を達成 した（100％）	予定通り実施できた。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
保育園読み聞かせ巡 回	ボランティアの協力を得て、保育園 において読み聞かせの巡回を行 う。	図書館	月2回	町内2カ所 年22回	A 事業内容を達成 した（100％）	予定通り協力を得て実施された。		継続	
子ども映画会	映画鑑賞を通じて、日本及び世界 の文学を理解するとともに、親子 のコミュニケーションの素材を提 供する。	図書館	随時開催	無	D 着手はしたが一 定程度まで達しな かった（30％）	今年度から定期開催から要望に応じ た随時開催とした。	今後も要望があれば開催する。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
おはなしと工作の広場	学校週5日制に伴い、子ども達がお話や工作を通して手作りの楽しさや物語の世界にふれる場として教室を実施する。	図書館	年4回	年4回 延26名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、学校へのPR活動を続ける。	継続	
手づくり絵本講習会	手づくり絵本を作る楽しさを普及するため、講座を実施する。	図書館	年1回	年1回 7名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
学級文庫	学級単位で団体文庫を設置する。	図書館	市街3小学校	市街3小学校	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
おはなし文庫	1セット55冊として期間中、月1回巡回配本する。	図書館	季節へき地保育所 年11回	季節へき地保育所 年11回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
幼稚園文庫	幼稚園児を対象とした図書を毎月1回配本する。	図書館	幼稚園2カ所 年12回	幼稚園2カ所 年12回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
読書感想文コンクール	児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集する。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
児童生徒作品展	展示機能を活用し、学校の協力を得て児童生徒の作品の発表の場を提供する。（町内3小学校の輪番）	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
ユニットライブラリー	図書館と地域を結ぶ拠点として、毎週土曜日午後を開館する。	図書館	町内2カ所	町内2カ所	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
図書館ボランティアの日	図書館ボランティアの日を制定し、図書館内でのボランティア活動の場を設ける。	図書館	年12回	年12回 延65名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	ボランティアの拡大を図りたい。	継続	
子ども未来絵本036事業	ブックスタート：10ヵ月健診時に乳幼児への読み聞かせの大切さや、その方法を説明するとともに絵本などを配布する。 ブックセカンド：3歳児健診時に絵本をプレゼントし、絵本紹介パンフレットを配布しアドバイスを行う。 ブックサード：新小学校1年生に絵本をプレゼントする。	図書館	ブックスタート 年12回 ブックセカンド 年10回 ブックサード 年1回3小学校	ブックスタート 年12回115名 ブックセカンド 年10回143名 ブックサード 年1回158名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
絵本展示	子ども読書週間に合わせ絵本の展示・紹介を行う。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
夏休み子ども自然教室	動植物の野外観察と絵本づくりを通して、身近な自然に親しんでもらう。	博物館	中止	年0回 0名		平成27年より中止		中止	定期的に実施せず、必要に応じて実施する。
こどもの日無料開放	柏餅配布、せんべい焼き体験、工作教室などを通じて、身近に博物館を感じてもらう。	博物館	年1回	年1回 入館者として 1,080名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
冬季作品展	展示機能を活用して、学校の協力を得て、町内の小中学校の児童生徒の作品を紹介する。	博物館	年1回	年1回 入館者として 707名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
学校教育との連携事業（旭小学校自然体験事業）	先生と学芸員との連携による自然体験事業の実践。学校との連携のあり方を考える。	博物館	年20回程度	年27回 参加児童・生徒数 として 1,175名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
自然講座（博物館講 座「自然編」）	身近な自然をテーマにした講演 会・観察会を通して、美幌の自然 の面白さを知ってもらう。	博物館	年10回程度	年13回 延べ 198名	A 事業内容を達成 した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
子ども工作教室	簡単な電子工作を行い、工作する 面白さを知ってもらう。	博物館	中止	年0回 0名		平成27年より中止		中止	「モノ作り講座」「フチ工房」に 統合させ、平成27年より中止とし ている。
美幌ふるさと祭り	祭りの出店、イベントから暴力団 (関係者)を排除し、青少年の健全育 成を促進する。	まちづくり		子ども横丁設置。 会場内禁煙。防犯 パトロールの実施 を行った。	A 事業内容を達成 した（100%）	暴力団を排除した町民手作りのお祭り で、子ども達が安心して楽しめた。ま た、各団体が防犯パトロールを行うこ とで、更に安心したお祭り運営がで きた。	お祭り運営をするにあたり、高齢化が進 み、若手の育成が必要。	継続	
1-4-2 青少年教育施設の整備									
児童館機能を有する 子ども拠点施設の整 備（コミュニティセ ンターの充実）	コミュニティセンターに児童館機 能を設け、子育て、発達を移し、 児童センターを併設して、子ども をはじめ親子の居場所づくりに重 点的に取り組む。	児童支援		子ども、親子の居 場所として開設し た。	A 事業内容を達成 した（100%）	取り組んでいる。	内容充実に努めたい	継続	
1-4-3 子どもを取り巻く有害環境対策の推進									
インターネット等利 用環境に関する啓発	インターネットやスマートフォン 等の正しい使い方やルール、マ ナーについて啓発する。	社会教育		研修会を1回実施 参加者11名	C 一定程度実施で きた（50%）	インターネットの利用も含め子ども の生活習慣について、ひほろっ子ワ ーク通学合宿の事前研修会とし て、青少年育成専門推進員が講師と なり保護者対象に実施した。	継続的に機会をつくり、インターネット やスマートフォンの家庭におけるルー ル作りと合わせて正しい生活習慣を身につ ける取組を進めて行きたい。	継続	
少年少女非行防止運 動標語	町内の小中高校生を対象に、防犯意 識の高揚と青少年の非行防止を目 的とした標語の募集を実施し、入 選作品10作品を表彰する。	まちづくり		中学生対象 335点応募	A 事業内容を達成 した（100%）	非行防止の意識を高めることがで きた。	対象学生全てが作品提出される様に、対 象学校への更なる協力要請が必要。	継続	
薬物、喫煙防止等活 動の推進	薬物乱用や喫煙防止のための教育 、指導活動を推進する。【再掲 1-2-3】	保健福祉							
2 すべての子どもの育ちを支える環境の充実									
（1） 要保護児童へのきめ細かな取り組み									
2-1-1 ひとり親家庭の自立支援									
ひとりの親への相談体 制の整備	増加傾向にあるひとり親家庭に対 し、自立支援、就業支援、相談体 制の充実と福祉サービスの情報提 供を推進する。	保健福祉		随時対応	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	就業支援等の相談があった場合、随 時対応を行っている。	今後とも相談があった場合、随時対応して いく。	継続	
2-1-2 障がい児施策の充実									
子ども発達支援セン ター	発達に心配のある児童、障がい を有する児童に対し、通園の方法に より指導を行い、育成を助長す る。	児童支援	1カ所 定員1日15名	1カ所 実人数 66名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	療育室が不足しているため新規の利 用希望者の回数を制限することが あった。	利用者が希望する通所回数の確保。	拡大	療育室の確保のため、旧中央保育 所を一部改修し平成30年1月に 移転予定。
幼児ことばの教室	幼児の健全育成と福祉の増進を図 り、心身ともに健やかに育成され るよう援助し、必要な指導を行 う。	児童支援	1カ所 定員20名	1カ所 実人数 36名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	入室希望者を全員受け入れることが できたが、通所児の回数を制限して いた。	利用者が希望する通所回数の確保。	継続	
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相 談、発達状態の確認、福祉制度実 施のために必要な判定の機会の確 保を図る。【再掲1-2-1】	保健福祉							

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
2-1-3 児童虐待防止対策の充実									
児童虐待防止対策の 充実（関連機関の連 携）	児童虐待を未然に防ぐとともに虐 待に遭った子どもを守るため、関 連機関の連携を密にし、広報活 動などを行う。	児童支援		要対協3回 ケース会議2回	A 事業内容を達成 した（100%）	必要に応じてケース会議等情報共 有、提供を行った。	各関係機関との連携を十分行う。	拡大	国の法改正により、市町村におけ る児童虐待事務の増加や職員研修 の義務付けなど役割が大きくなっ てきている。
（2） 子育て支援のネットワークづくり									
2-2-1 子育て親子の交流推進									
しゃきっとプラザの 活用	プレイルームを子育て中の親の居 場所や相談の場として有効活用す る。【再掲1-1-2】	保健福祉							
プレマクラス（妊 娠中からの講座）	妊娠中から子育ての環境づくりに ついて学習するとともに、仲間づ くりを行い、子育ての孤立化を防 止する。	保健福祉		9回	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	多くの妊婦に参加していただけるよ う、実施内容の検討する。	産後のボディケアについて、講話の要望 が寄せられている。	拡大	産後の健康づくりについて、助産 師の講話を増やす。
両親教室（妊娠中か らの講座）	夫婦がともに子育てについて学習 することにより、父親の育児参加 の推進を図る。	保健福祉		3回	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	参加者の満足度は高いが、参加率は 低い現状にある。	参加しやすい時間帯や曜日を検討。参加 しやすい内容を検討する。	継続	
フレッシュママセミ ナー	4ヶ月～1歳までの子どもとその母 親を対象として、子育てに関する今 日の課題（食事や遊び等）について 学ぶ講座を開設し、親子のつながり や他の親子との交流を深める機会を 提供する。	社会教育		延べ24組52名 夏期 15組32名 冬期 9組20名	A 事業内容を達成 した（100%）	保健師と連携し新に母親の健康につ いての講話を取り入れるなど、子ど もと親両面からのアプローチがで きた。	乳児の託児を安全に行うことができ よう、託児ボランティアの現状と照らし 合わせ、募集定員を若干名少なくし実施す ることも検討する。	継続	
2-2-2 子育てサポーターの養成									
子育てサポーターの 養成（サポーターの 養成講習会、登録、 活用）	子育て親子を支援する人材の発掘 と養成のため、子育てサポーター の養成講習会等を実施するととも に、登録し活用する。	児童支援	平成28年度 登録者22名	4名登録	C 一定程度実施で きた（50%）	申し込み者が少なかったが、ボラン ティア講座を受講された4名が子育て 支援センターボランティアとして登 録。来年度から子育て支援センター の行事の託児依頼をする。	登録者の増に向けて、力を入れていき たいのだが、なかなか人材確保は難し くなっている。	継続	
（3） 子どもの安全の確保									
2-3-1 子育てを支援する生活環境の整備									
子どもたちを見守る 活動の推進	「おはよう」「こんにちは」「車に 気をつけて」など、地域の子どもた ちに声をかけることや青色回転灯装 備車両による見守り活動を行う。	社会教育		子どもみまもり隊 登録者数 （平成29年3月末現在） 2,207名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	氏名が重複している、転居している など、実数と異なる事象について整 理を行い、登録者名簿の整理を行っ た。今度も登録者を増やしていくた め広報を行っていきたい。	氏名重複や転出などについて整理を行 い、現状把握ができた。これに従い今後 の取組を進めていきたい。	継続	
2-3-2 子どもの安全を確保するための活動 の推進									
交通安全教室の開催	小中高校、幼稚園、保育所、保育 園などを対象に交通安全指導を行 う。	まちづくり		20回 延べ 2,147人	A 事業内容を達成 した（100%）	生涯教育として、交通安全教育を継 続実施し啓発普及を図った。	中高生については、学校の授業に取り入 れる余裕が無く不十分であり、街頭指導 などで補っている。	継続	
交通安全ポスター・ 作文コンクール	交通安全意識の啓発のため、町内 小中学生からポスター・作文を募 集し、作品を展示する。	まちづくり		・ポスター 小学生247点 中学生108点 ・作文 中学生118点	A 事業内容を達成 した（100%）	家庭からの交通安全意識の助長。 作品展示・入選作品のカレンダーの 作成により啓発を行い、交通安全意 識の高揚を図った。	児童・生徒数の減少により出品数が減っ ているが、今後も継続実施していく。 応募を増やすため、作品募集要領の一部 改正を行う。	継続	
消防チビッ子大会	子どもたちが消防署に親しみ、防火 に対する意識を高め、遊びを通じ て火遊びなどを防止し、安心・安 全なまちづくりを行う。	消防署		年1回 約180名参加 （雨天の実施である）	A 事業内容を達成 した（100%）	消防への関心と、防火に対する意識 を高めているので達成している。	マンネリ化しないように新たな事業内容 を検討していく。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
2-3-3 子どもを犯罪等から守るための活動の推進									
子どもの安全確保の充実	登下校時における児童生徒の安全を確保するため、不審者情報を携帯電話のメールなどにより周知する。	学校教育		6回配信	A 事業内容を達成した（100%）	教育委員会が把握した情報が速やかに多くの方へ周知出来、児童生徒の安全確保に繋がっている。	導入当初からのシステムのため、ソフトの更新が必要であったが、平成29年度に町が行うあんしんネットひろと統合予定。登録者数の更なる拡大を図る。	継続	
子ども110番活動の充実	子どもを犯罪から守り、被害を最小限にするため、トラブルに巻き込まれそうになったときに助けを求められる場を確保する。	まちづくり		0件	C 一定程度実施できた（50%）	対象事案が発生していないため、トラブル等の抑止効果があると思われる。	新たな登録者の増加と子供達への周知が必要。	継続	
（4） 被害に遭った子どもの保護の推進									
2-4									
児童虐待防止対策の充実（関連機関の連携）	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待に遭った子どもを守るため、関連機関の連携を密にし、広報活動などを行う。【再掲2-1-3】	児童支援							
3 仕事と子育ての両立の推進									
（1） 保育サービスの充実									
3-1-1 通常保育の充実									
通常保育事業	保護者の労働又は疾病などにより、家庭において児童を保育することができないと認められる場合に、保護者に代わり、保育園(所)での保育を実施する。	児童支援	常設 定員 120人	実績 109人 (最大在籍時)	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	年々町の総児童人口は減少しているが、保育が必要な児童を対象に保育所（園）での保育を実施できた。	1・2歳児の保育希望者増加への対応が課題である。受入について認可外保育園などと連携・情報交換等を図っていく。	継続	
保育園開放事業	乳幼児の子どもとその親に保育園を開放し、遊びの場を提供することにより、子育て家庭への支援を行う。	児童支援	2カ所 年6回	2カ所 2保育園×3回	A 事業内容を達成した（100%）	参加組数が少なかったが、参加者からは好評を得た。	保育園と内容を検討しながら、交流を進めて行く。	継続	
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。【再掲1-4-1】	児童支援							
3-1-2 一時預かりの充実									
一時預かり事業	保護者のパート就労などや疾病、入院などにより、緊急・一時的に保育を必要とする児童の預かりを行う。	児童支援		3施設実績延129人 439日 子育て支援センター 町立保育園2箇所	A 事業内容を達成した（100%）	同日に託児希望者が重なりと保育士の確保が難しいことがあったが出来るだけ対応した。	保育士を確保し、利用者の増加に対応していきたい。	継続	
学童保育一時預かり事業	緊急・一時的に保育を必要とする小学生の児童の預かりを行う。	児童支援		未実施	E 着手できなかった	人員確保など受入体制の整備等が困難なため実施することが出来なかった。	緊急での利用要望はなかった。ただし、急ぐ事情の場合は、現状でも優先して早急に保育を行っている。	継続	
妊婦健診時一時預かり事業	第2子以降の出産の場合、町外の産婦人科医院(病院)に通院するとき、託児する親族がいない場合に、子育て支援センターで一時的に上の子の預かりを行う。	児童支援		延べ15日（11人）	A 事業内容を達成した（100%）	利用者は少ないが出産まで定期的に利用してもらえた。	一時預かりが増えてきているので、妊婦健診時の保育士の確保。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	28年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
3-1-3 多様な保育施策の活用									
多様な保育施策の充実・促進	事業内保育施設や民間保育所などの認可外保育施設に対し、保育内容の充実のための助言や指導に努める。	児童支援		実施	A 事業内容を達成した（100%）	道で実施する立入調査に同行し指導を実施している。	情報交換の場を設けるなどし、保育内容等の充実を努めたい。	継続	
へき地保育所の運営	上美幌、福住及び田中地区のへき地保育所を、1月を除く11ヵ月間運営し、へき地の保育需要に対応して保育を実施する。	児童支援		定員150人 実績 52人	A 事業内容を達成した（100%）	各保育所、毎年10人以上の児童を受入し保育を実施できた。	発達に多少心配がみられる児童の増加傾向への保育士確保。	継続	
季節保育所の運営	毎年4月から12月までの9ヵ月間、農繁期などにおける就労形態に応じ、地域の保育需要に対応して保育を実施する。（中央保育所）	児童支援		定員100人 実績 6人	A 事業内容を達成した（100%）	平成28年度で休所するため、中央保育所1カ所での運営で在園継続希望児のみを対象に保育を実施した。	利用者の減少に伴い、平成28年度で廃止した。	廃止	平成28年度で廃止。
（2） 男性を含めた働き方の見直しと父親の子育て参画の促進									
3-2 父親の子育て参画									
父親の子育て参画の啓発	父親が子どもと過ごす時間を設け、母親がリフレッシュする時間を確保するとともに男性の子育て参加を促進する。	保健福祉		3回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	両親学級で実施。		継続	
両親教室（妊娠中からの講座）	夫婦がともに子育てについて学習することにより、父親の育児参加の推進を図る。【再掲2-2-1】	保健福祉							
（3） 放課後児童対策の充実									
3-3 放課後児童対策の充実									
放課後児童健全育成事業（学童保育所）	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。【再掲1-4-1】	児童支援							
学童保育一時預かり事業	緊急・一時的に保育を必要とする小学生の児童の預かりを行う。【再掲3-1-2】	児童支援							
コミュニティスクールの開設	あらゆる世代がふれあい、語り合い、学び合う活動を通して、子どもたちを地域全体で育てようとする交流の場を開設する。	社会教育		3小学校区で開設	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続	